

南あわじ市平成 20 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(団体用)

I 基本事項

整理番号 316

事業名	南あわじ市老人クラブ連合会		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	健康福祉部	長寿福祉課		款	民生費・3款
電話	0799 - 44 - 3005			項	社会福祉費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠		目	老人福祉費・3目
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	(法令、条例、要綱等)	南あわじ市老人クラブ社会活動促進事業等補助金交付要綱		
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱		安らぎづくり_元気あふれ_住んで快適なまちづくり_		
	まちづくりの目標		延ばせ健康寿命_【健康】		
	施策目標		高齢者の生きがい活動や就業の場、癒し・消費の場を広げる		

II Plan&Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

団体の概要	(どのような団体か)				
	市内に居住するおおむね60歳以上の者。1単位クラブ50人以上で構成されている。会員数は12,579名で、連合会は、4支部、205単位クラブの集まりで結成され、役員は39名で構成されている。				
	(構成員内訳)				
	緑支部	14単位クラブ	会員	1,021名	役員構成人数(人) 39
	西淡支部	54単位クラブ	会員	3,113名	
	三原支部	55単位クラブ	会員	3,483名	
	南淡支部	82単位クラブ	会員	4,962名	
	事務局の所在 (直接事務執行部署)	<input type="checkbox"/> 補助団体	<input checked="" type="checkbox"/> 市役所	<input checked="" type="checkbox"/> 市単位 (連合会)	<input checked="" type="checkbox"/> 旧町単位 (4支部)
団体の概要	活動対象(誰を・どのような状況の人を)				
	市内に居住するおおむね60歳以上の者。				対象人数 12,579
	活動目的(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 市内における老人クラブ各支部相互の連絡調整を図り、老人福祉の拡大強化並びに社会福祉の増進に寄与することを目的とする。また、未来を担う次世代の育成支援活動や各々の地域の特色を活かした様々な活動に取り組む等、高齢者の世紀にふさわしい老人クラブづくりに積極的に取り組む。				
団体の概要	活動内容 (主な事業、具体的な活動内容等) 「健康・友愛・奉仕」の全国三大運動をはじめ、次世代を担う子供たちの育成支援活動や地域の特色を活かした様々な活動に取り組む。また、南あわじ市のテーマである「食」がはぐくむふれあい共生の都市(まち)づくりのため、関係機関や各種団体等と連携・協力しながら、社会的な役割を果たしていく。健康や体力を維持、改善していくスポーツ大会や健康づくり推進事業等を積極的に取り入れる。在宅福祉を支える友愛活動や子ども見守り活動、消費者被害防止など地域支え合い活動を推進する。地域社会の担い手として日常的な奉仕活動の推進を図る。				
	補助金算出根拠	【単位補助金】1単位クラブ 120,000円 【支部活動費】3,650,000円 内訳 緑435千円、西淡427千円、三原1,298千円、南淡1,096千円 【連合会活動費】2,175,000円 内訳 本部運営費956千円、健康づくり活動支援事業1,380千円			
補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし				
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)				
	<input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 1単位クラブ120,000円で統一する。 旧郡老連を市老連の組織として活動する。 4支部(旧4町)の活動を残し、支部から役員を選出し、連合会の役員を構成する。 ただし、現在では部分的検討が必要となっている。				

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
資源配分 ポイント ネット	直接事務費 (千円)	30,466	30,425	30,192	28,552
	老人クラブ連合会補助金	30,466	30,425	30,192	28,552
	事務局事務費(市が事務局の場合)				
	財源 (千円)				
	国				
	県	16,789	16,356	14,829	14,794
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	13,677	14,069	15,363	13,758
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	29.9	30.1	27.9	27.9
	事業量1(事業に要した日数)				
	事業量2(事業に要した人数)				
	年間経費([A]+[B])	13,677	14,069	15,363	13,758
	「目的」対象一人当り経費 (千円)	1.1	1.1	1.2	1.1
受益者人数(12,579) 1人当り経費(千円)	1.1	1.1	1.2	1.1	
経費に関する補足説明	平成21年度は単位クラブ補助金を96,000円とし、新規事業として単位老人クラブ健康推進補助金3,280千円を計上している。				

Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 高齢社会にあって、多年にわたって培ってきた知識や経験等をもとに、老人クラブ活動を通じて地域社会の一員として活躍をしている。 健康づくりにも力を入れ健康の保持増進に努めており、医療費、介護保険料の抑制にも役立っている。 ただし、老人クラブに入会し活動することにより元気であると考えられるが、費用的には数字が出にくい部分があり、果たして現在の補助金が活動費に似合っているかは検討が必要である。	自己評価 (5点評価)
		4
必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 (公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 少子高齢化が急速に進むなか、老人クラブが実施している、高齢者の見守り活動や子育て支援事業また、交通安全啓発や立番等地域社会での貢献は益々重要性を増してくると考える。	自己評価 (5点評価)
		5
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 上記の「必要性」欄で記載のとおり、少子高齢化が急速に進むなか、老人クラブが実施している高齢者の見守り活動や子育て支援事業、また交通安全啓発や立番など地域社会での貢献は益々重要性を増してくると考える。しかしながら補助金については活動内容に似合った額なのかの検証が必要であると考え。	<p style="text-align: center;">評価グラフ</p> <p style="text-align: center;">費用対効果 必要性</p>

IV Action&Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成21年度にできる改善・改革	平成22年度以降にできる中期的な改善・改革
	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input checked="" type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減
今後の方向性とその理由	<p>県の補助金が減額されていることから、老人クラブの活動に感謝しつつも補助金については減額の必要が生じている。</p>	同左
(現状維持以外の場合) 具体的な改善方法	<p>単位クラブにおいて、県の補助基準額が96,000円となっている以上は、120,000円を補助することは財政にとって大変厳しいことから、今年度から市補助金も県の補助基準額どおり96,000円とする。ただし、新規にこれとは別に、医療費・介護費の増加を防ぐ健康保持のための事業を行う場合は、単位老人クラブ健康推進補助金(1単位クラブ当たり16千円)を交付する。</p>	同左
改善によって期待される効果 (現状維持以外の場合)	<p>財政の厳しい折、補助金の額にかかわらず積極的に自己の健康保持増進及び社会奉仕に取り組んでいただける高齢者に期待したい。</p>	同左
(現状維持の場合も記入) 廃止の影響	<p>仮に補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>廃止した場合は老人クラブ活動が止まってしまい、健康の保持増進が図れなくなる高齢者が増え、医療費や介護保険料に大きく影響してくる恐れがある。 また、多くの場でご奉仕いただいている活動が止まってしまうと市にとって大きな損害になると考える。</p>	